資料４－１

（仮称）国際センター駅北地区複合施設

［音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点］

基本構想

（最終案）

概要版

令和５年６月

仙　台　市

1. 策定趣旨

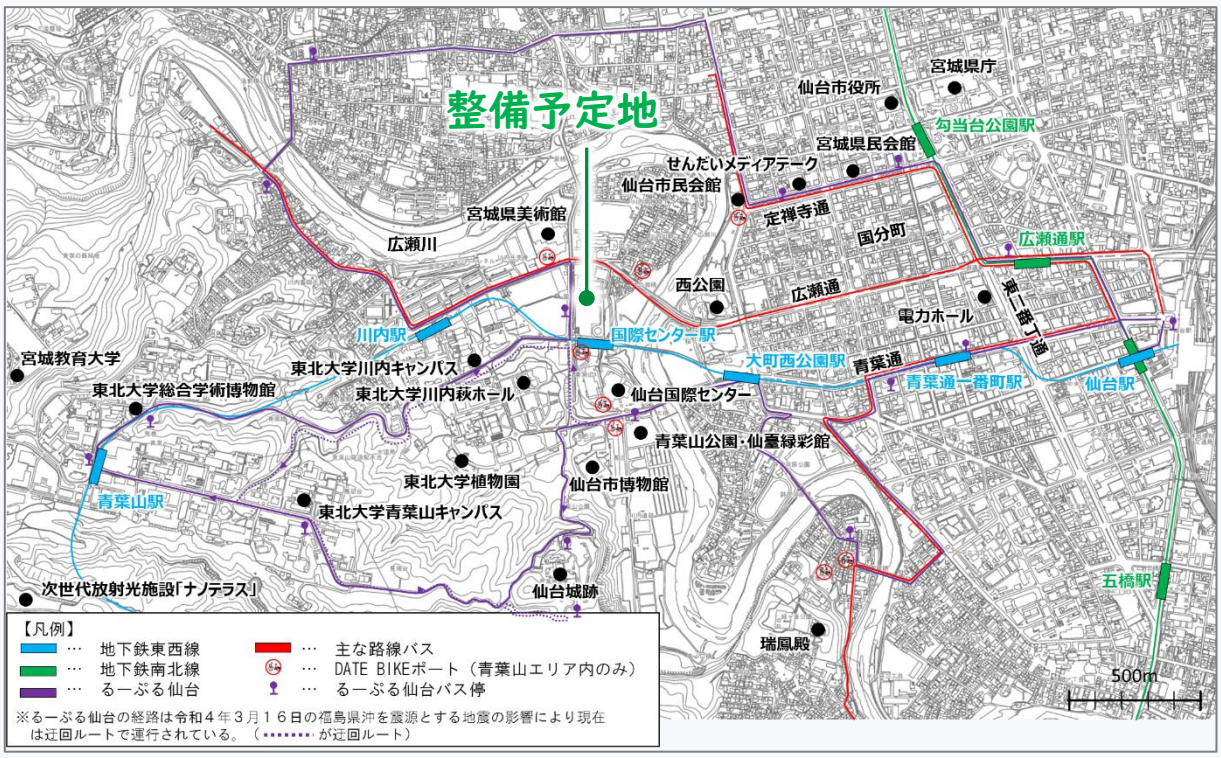
仙台市では、かねてより整備検討を進めておりました「音楽ホール」、「中心部震災メモリアル拠点」を複合施設として整備することとしました。

複合化によるコスト削減のメリットがあるのは勿論のこと、それぞれが持つ特性を存分に生かしつつ、相乗効果の発揮された、仙台ならではの創造性あふれる施設となることが期待できます。さらに、「3.11（東日本大震災発生の日）」を起点に持つ両施設を複合することにより、復興を象徴する施設として力強いメッセージを打ち出すことができるものと考えています。

次の世代に向け、人や文化やまちを豊かに育てる杜の都の新たなシンボルとなることを目指し、本基本構想を基に整備を進めてまいります。

2. 整備予定地

整備予定地は、地下鉄東西線国際センター駅の北側、現在の「せんだい青葉山交流広場」とします。青葉山エリアは、伊達政宗公が仙台城を構えた、仙台のはじまりの地とも言うべき特別な場所です。文化・歴史・学術資源が集積するとともに豊かな自然環境にも恵まれた、国内外から多くの人を集めることのできるエリアであり、この施設の整備によってエリアの個性・魅力のさらなる高まりが期待できます。



所　在　地	仙台市青葉区青葉山2番1、2番4、2番5（地番）
面　　積	約 19,200 ㎡（東西約 108m、南北約 178m）
現 在 の 用 途	せんだい青葉山交流広場（駐車場、イベント会場）
交通アクセス	地下鉄東西線国際センター駅に隣接（仙台駅から3駅、5分） るーぷる仙台「博物館・国際センター前」、「国際センター駅・宮城県美術館前」のりば近接

3. 基本理念・目指す施設像

基本理念

人・文化・まちを育む創造の広場

～文化芸術と災害文化がつなぐ　人と人、過去と未来、仙台と世界～

目指す施設像

❶**「人と人との交流を通し、新しい文化的価値が生まれる場」**

多くの人が気軽に・自由に訪れ、また、特別な時間や体験を共有することで、多様な出会い、交流、創造的取組みが生まれ、地域を一層豊かにする新たな文化的価値へとつながっていく場となる。

❷**「過去に学び未来を創る、新たな都市文化の創造・発信の場」**

3.11 を契機とする、他に例を見ない文化芸術と災害文化の複合施設として、仙台の歴史や個性を土台に未来をより良いものとする「仙台オリジナル」の都市文化が形づくられ、発信される場となる。

❸**「文化のネットワークを形成し、多くの人が訪れたくなる場」**

青葉山エリアに立地する特性を生かし、各種機関・施設との有機的な連携のもと、仙台の文化観光の拠点として市民はもとより広域からも人を呼び込み、さらに世界にもつながる事業展開をすることで、まち全体に魅力と活気をもたらすことのできる場となる。

複合施設の管理運営

音楽ホールの事業運営

中心部震災メモリアル拠点の事業運営

4. 連携・協働事業の推進

両施設の特性やノウハウを融合させ、新たな形の創造事業、双方の分野にとってメリットが生まれる事業など、本施設ならではの連携・協働事業を実施していきます。

また、事業を効果的に実施するとともに、分野を超えた人的つながりやさらなる事業展開のアイデアが生まれるよう、文化芸術・災害文化双方の分野の人材が参画する推進体制を構築します。

5. 機能・事業等

■音楽ホール

基本方針　　仙台の文化芸術の総合拠点

①「楽都仙台」を象徴する実演芸術の拠点
②文化観光交流の新たな核となる拠点
③復興の過程で明らかとなった文化芸術力を社会に生かす拠点

○機能

機　能	概　　要
①公演機能	音楽をはじめとした多様な実演芸術の鑑賞機会、発表機会を提供する機能
②練習・創造支援機能	練習活動をはじめとし、実演芸術の一連の創造プロセスを支援する機能
③交流機能	誰もが日常的に集い、憩い、居場所を見つけ、文化芸術を介して様々な交流ができる機能
④都市活性化機能	青葉山エリアの賑わい創出や、都心を含む都市全体の活性化に寄与する機能
⑤文化芸術力発揮機能	文化芸術の力を社会の様々な分野に生かすとともに、人々が様々な糸口から文化芸術を体験できる機会を創出する機能
⑥人材育成機能	音楽ホールの多様な活動を担う人材、これからの仙台の文化芸術を担う人材を育成する機能

○事業の概要

①創造	・市民の多様な期待に応えられる鑑賞機会を提供する。 ・仙台ならではの企画、制作、発信を通じ、「楽都」「劇都」の都市ブランドをさらに高める。 ・全ての人に鑑賞の機会が開かれるとともに、プロ・アマを問わず、誰もが主体的な創造活動に参画できるようにする。 ・仙台の歴史、文化芸術の歩み、災害の記憶など、地域に根差した事柄から創造・発信を行い、将来に向けた資源としていく。
②活力	・様々な交流事業やイベント等の開催により、来館者・来街者を拡大していく。 ・周辺施設の情報提供や憩える場の提供などにより、青葉山エリアの活性化に寄与する。 ・青葉山エリアや都心部の施設・機関・店舗等と連携し、街に賑わいをもたらす。
③発揮	・社会包摂の視点に立ち、あらゆる人々が文化芸術を体験し、創造性を発揮できる多様な機会を創出する。 ・東日本大震災からの復興の力となった文化芸術の力を、地域・社会における諸課題の解決に生かすための取組みを推進する。 ・災害文化創造拠点としての取組みと連動し、新たなコミュニティの形成に寄与する。 ・災害時における文化芸術活動のノウハウの継承・発展を図る。
④育成	・様々な目的・立場で活動する人それぞれに、技量や能力を高められる機会を提供する。特に若い世代に多様なチャンスや出会い、体験の機会を生み出す。 ・市民の文化芸術活動を支援するとともに、団体間交流などを促進する。 ・施設や文化芸術に興味を持ってもらうための入門的な企画を実施する。 ・多様な人材を施設の内外で育成し、仙台の文化芸術環境の向上につなげる。

○組織

➢運営組織のあり方を検討していく上で、「多様な専門人材の確保」、「市の文化芸術政策等と協調した事業展開を適切に実行できる組織であること」を重視します。
➢芸術監督など芸術面を主導する人材、事業運営の専門家、舞台技術運営の専門家といった人材の登用のあり方について検討を進めます。

■中心部震災メモリアル拠点

基本方針　　災害文化の創造拠点

①防災環境都市・仙台ならではの災害文化創造拠点
②災害文化を市民のものとし、社会に定着させる拠点

○機能

機　能	概　　要
①　メモリアル機能	忘れたころにやってくる災害に備えるため、東日本大震災をはじめとする過去の災害の記憶を喚起し続ける機能
②　災害文化普及啓発機能	安全な市民生活を将来にわたり持続させるため、生活の中に「災害に備え、乗り越えていく」文化を創造し、定着させる機能
③　発信機能	災害を乗り越える力を持ち、さらに新たな文化を創出する防災環境都市として、仙台の魅力を世界に発信する機能

○事業の概要

①認知	・災害の経験を蓄積するアーカイブシステムを市民とともに創り、共有し、地域の防災力向上に生かすために利活用を促していく。 ・災害の記録や記憶が伝わる常設展示のほか、災害の記録や記憶が伝わり、災害文化の定着に繋がるような企画を、文化芸術の手法も取り入れながら実施する。 ・災害は発生することを認識し、自分を、社会を守れる人を育て続ける。
②創造	・災害に備え、乗り越えるため、市民、企業、研究機関、行政など、災害分野に留まらない多様な層が交流し、自由に対話できる場や機会を提供する。 ・企業や災害関連の活動団体、研究機関等と連携し、様々な主体が抱える課題を洗い出し、解決に繋がる支援を行う。 ・災害文化の創造に繋がるワークショップを開催し、市民や若者の学びを支援する。
③実装	・災害文化を社会や日常生活に組み入れる工夫や仕組みづくりを行う。 ・3.11 の被災各地と連携し東日本大震災特別展やメモリアルコンサートなどを実施し、3.11 の経験と想いを未来に継承し続ける役割を果たす。 ・災害への関心が薄れることを防ぎ、防災・減災意識を向上させるため、毎月 11 日や過去の大規模災害発生日などに広く市民が参加できるイベントなどを開催する。
④発信	・3.11 の被災各地と連携し、各地の伝承施設や取組み、観光地などを紹介するゲートウェイ機能を果たす。 ・災害文化を鍵として世界各地を繋ぎ、人や情報が行き交うネットワークを形成する。 ・国際機関や研究機関と連携し、文化芸術も含めた災害文化の意義を世界に発信する。

○組織

運営組織のあり方を検討していく上で、「多様な専門人材の早期の確保」、「これまでにない先進的な取組みを実施できる組織体制であること」、「文化芸術と協働するスキルを持つこと」を重視します。

6. 施設概要

○基本的な考え方

① いつ来ても居場所があり、文化芸術や災害文化との出会いのある開かれた施設
② 全ての人が利用できるユニバーサルな施設
③ 施設全体を使って総合的な活動を展開できることが特徴となる施設
④ 市民もプロも「みんな」で育む施設
⑤ 先端技術に対応できる施設

○施設の規模（面積構成）

エリア	主な施設	床面積の想定
①ホールエリア	○大ホール：クラシックのコンサートやオペラ・バレエの上演などをはじめとする生の音源に対する音響を重視した、2,000 席規模のホール ○小ホール：生の音源に対する音響を重視しつつ、市民の多様な実演芸術活動の場となり、プロフェッショナルな創造活動の場ともなる 300～500 席程度のホール	9,000 ㎡～9,200 ㎡程度
②文化芸術創造支援・活用エリア	○音楽リハーサル室（倉庫・諸室等含め 500 ㎡程度） ○舞台芸術リハーサル室（倉庫・諸室等含め 600 ㎡程度） ○練習室群（複数の中・小練習室等） ○製作工房等（小道具・美術等製作場、収録室等） ○ワークショップゾーン（1,100 ㎡程度） ・ワークショップスタジオ（300 ㎡程度） ・子どものための空間、創作アトリエ等	3,000 ㎡～3,100 ㎡程度
③災害文化創造支援・発信エリア	○展示スペース（常設展示、企画展示、展示開発室） ○交流連携スペース（アーカイブ活用スペース、相談カウンター、ラボ、ワークショップスペース） ○インフォメーションスペース	1,250 ㎡程度
④広場エリア	○交流ロビーゾーン ・交流イベントロビー（エントランス）（1,200 ㎡程度） ・情報コーナー、カフェ・レストラン等 ○クワイエットスペース ○屋外広場 ※床面積算定外	2,000 ㎡～2,100 ㎡程度
⑤運営エリア	○施設を管理運営・維持管理していくために必要となる諸室、事業運営等を推進していく団体等の諸室等	2,300 ㎡～2,600 ㎡程度
その他	○廊下、階段、エレベーター、エスカレーター、ダクトスペースなどの機能施設以外の共通動線等および設備・機械室等	13,450 ㎡～13,750 ㎡程度

想定延床面積（上記床面積の合計） ※施設内駐車場面積は算定せず	**31,000 ㎡ ～ 32,000 ㎡ 程度**
想定建築面積	**9,000 ㎡ ～ 11,500 ㎡ 程度**

★音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の施設共用化を図ることにより、それぞれの施設を単独整備した場合と比べ、1,000 ㎡程度の床面積削減が図られます。

○ホール施設としての音響設計について

大ホールをはじめとする演奏空間においては、生の音源に対する音響性能を重視します。音響設計者の選定や業務推進体制、ホールの音響模型実験の必要性など、音響設計の効果的なあり方を検討します。

7. 周辺との関係

○景観への配慮について

➢青葉山や広瀬川といった周辺環境を生かした施設となるような建築上の配慮を行っていきます。

○周辺施設との連携や回遊性向上について

➢近隣の施設との有機的な連携や開かれた施設づくりにより、青葉山エリアの活性化を目指します。

➢周辺文化施設と共同で青葉山エリアの魅力を面として発信するとともに、学校が多数立地する特性を生かした企画を検討し、若い世代が気軽に訪れる施設となるよう取り組みます。

➢災害文化を広めるため、東北大学をはじめとする市内の各大学との連携方法を検討していきます。

➢都心部への回遊性向上に向けた、周辺を歩く過程を楽しめるような環境づくり、商業施設や飲食店等を巡るようになるための仕掛けづくりについて検討していきます。

○地下鉄東西線国際センター駅との関係について

➢青葉山エリアへの来訪者にとって主要な起点の1つである同駅の重要性を十分に踏まえ、雨に濡れることなく行き来できる接続方法など、施設と駅舎の関係のあり方を検討します。

➢地下鉄と他の移動手段の接続の利便性、効率性が維持されるよう検討します。

➢地下鉄を、沿岸部の震災メモリアル施設や、沿線の各種文化施設・公共施設と本施設とをつなぐ存在と捉え、これを生かした施設間連携を推進していきます。

○公園敷地、河川敷との関係について

➢周辺の公園、河川敷と連続性を持ち、市民・来訪者が憩い、楽しめる場となるような空間のあり方について検討します。

○MICE への協力と大規模学会利用への対応について

➢国際センターを使用しても会場が不足する大規模学会開催時に、国際センターと連携した開催が可能となるよう、施設の優先予約や占有利用を認めるなどの特例的な取扱いについて検討します。

8. 今後の進め方

○整備事業費の検討

➢事業や施設のあり方と併せて、整備事業費の検討を進めていきます。

➢なお、建築費単価の見込や想定延床面積に基づく簡易的な試算では、建設工事費（施設内駐車場除く）と設計費・施工監理費の現時点での見込額の合計は約 340～350 億円となります。

➢この他に、施設内駐車場整備に係る費用、音響設計費、備品購入費、外構工事費、調査費その他の関連費用についても今後検討が必要であり、基本計画策定および設計段階でさらなる精査を進めていきます。併せて、財源確保の方策についても検討します。

○整備スケジュール

本基本構想を基として、事業や管理運営をさらに具体化し、施設や設備との関係を明確にし、設計に必要な様々な事項を定める「基本計画」を策定します。

基本計画段階において、分離発注方式、PFI 方式といった整備手法を決定します。例として、分離発注方式で整備を行った場合には以下のようなスケジュールが想定され、令和 13 年度中の竣工、開館が見込まれます。

年度	R4（2022）	R5（2023）	R6（2024）	R7（2025）	R8（2026）	R9（2027）	R10（2028）	R11（2029）	R12（2030）	R13（2031）
行程	基本構想	基本計画	設計者選定・設計等			入札・建設工事・外構工事・開館準備等				開館